

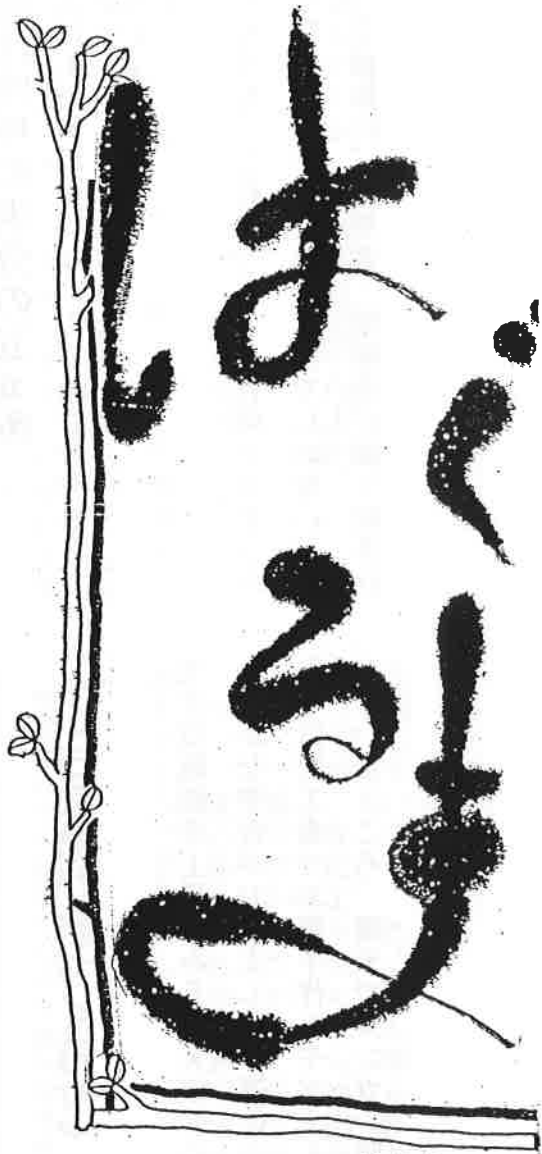
何処へ行く 日本の福祉

区分認定が始まりました。これによって仲間は、非該当・1〜6区分に分けられます。この手続きの中で、どのような事態が発生しているか……

それは「対立・対決」
 「重い区分は困ります。だつて負担が増えるから 掃除も洗濯もできるし、一人で歯も磨ける、何でもできる」
施設は
 できることを増やしていく事に、力を入れてきたので、確かにできるようになってきています。が 必要な支援はかなりあります。例えばホームでは、ほぼ全員の歯磨きの仕上げは職員がやります。歯科医から、虫歯にさせない予防・歯周病の治療のため、仕上げは職員がしたほうが良いとの指摘から始まりました。

障害認定区分が

及ぼすもの！



【質問 歯磨きが一人でできますか】

保護者・仲間は

「重い区分は困ります。」

そして最悪のストーリーが

平成18年度国基準

障害程度区分	単位	年額
共同生活援助（Ⅰ）	171	661,236
共同生活援助（Ⅱ）	116	448,548
区分2	210	812,040
区分3	273	1,055,652
区分4	300	1,160,064
区分5	353	1,365,000
区分6	444	1,716,888
小規模事業加算	37	134,976

支援費のときは、年額 1,560,000～1,740,000 円です。はぐるまの仲間は、Ⅰから区分2がほとんどだろうと予想されます。ということは……

歯磨きひとつにしても、「できる・要介護」その一つ一つが区分を左右します。「できるけど、かなりの支援が必要」と視る施設側と「できる」という仲間の自負との対立関係が生まれています。

NO、21

2005年6月2日

社会福祉法人

はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

- ・ホームの運営費は半分になり、
- ・当然職員も雇用できず、宿直はせず、
- ・夜間は見回りだけで、仲間で過ごす？
- ・自立に向けた支援は人がいなくてできないので、安全に過ごす事のみ

・身の回りの世話も行き届かないので、保護者をお願いする？

・病気・事故・トラブル・緊急時にどう対応しているだろうか？

こんなホームで

いいですか？



川崎市の今年度のホーム新設予定は昨年の半分の五カ所

まだ手が挙がっていない！これじゃやるとこないよね……

そもそも、これをやること自体ナンセンスな話。国の予算削減の方法でしかない、自立支援法に、当事者・関係者が振り回され

ているのですから。

名古屋では、一割負担拒否や認定をボイコット、全国的にも負担が大きいため施設を退所した、ということを開きます。

施設と利用者共倒れの最悪のケースです。

このように、弊害だらけのこの法案に、異議申し立てをする運動がこれから活発になる事でしょう。私たちはこの法案に強く反対します。

はぐるまの関係者の皆さん。

大いなる関心を持って行動しましょう。

ホット一息する

いい話はないですか？

ありました

《小さな命が息づく日々》

五月は観測史上稀にみる曇天続きの中、さわやかな事件がおきました。連休中、仲間たちは菅工舎でお菓子作りやゲームで楽しんでいたところ、晴天でカンカン照りだつ

た三日、作業所前のゴミ箱に、籠に入った

ままで捨てられていた二匹のハムスター。

一匹は毛、皮膚も冒され瀕死の状態。もう

一匹は必死にも生き抜こうと動き回る。

かわいそうだと拾ってきた仲間たちは、一同に触りたがり、キヤーキヤー騒いで関心を示す。中には無関心を装う仲間もいるが、気にはなる小さな生き物。小動物特有の菌は、免疫力の弱い仲間には、咬み付き行為等でよくない。仲間は心配をよそに「飼いたい。名前は菅工舎に因んで(スーちゃんとコーちゃん)」と飼うことを決めてしまう。

早速職員によるフォロー開始、動物病院へ連れて行き、薬と栄養剤と飼育の仕方を聞き、治療と管理をする事になりました。

週末はホームで、月々木は作業所で飼う事にしました。三日間ほどで二匹とも元気に快復し籠の中で這い廻っています。保健所行きか、そのまま放置かの岐路に立たされていた、小さな幼い命が仲間たちの強い意

志で救われ、悩みに悩んだ職員も、清々しい気分になる。

犬と道ですれ違う時に、石を持って身構えるSさんがホームの世話係。すぐに興味を示す仲間、二・三週間してからジーツと見つけて「かわいい！」と言う仲間と

反応は人によって異なりますが、情操面では、アニマルセラピーといわれるように

「暴力はいけません、いじめはダメ！」という言葉より効果は大のようです。

いずみホームの庭畑にも、農薬や殺虫剤を使わないので、虫や鳥たちが沢山訪れます。いも虫を潰すとイヤがる仲間たちが、たがやシクラブの活動をして、畑に出れば小動物や作物と対峙し命の大切さ、はかなさを肌で感じているようです。今年もミミズが五年前全くいなかった畑に、自然の輪廻が……

仲間たちは二匹のハムスターを籠に入れ、ホームと作業所間の運搬をしています。

気がついたら声をかけてください。

仲間たちとハムスターに！（中山記）

近況報告

花ハウス

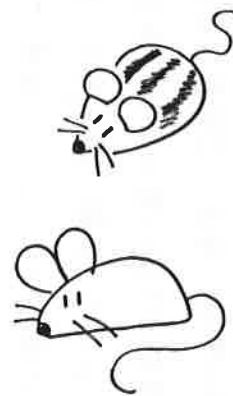
金曜日にボランティア協力、ありがとうございます。ございます。

ホームの山本さん・鬼海さん・中川（き）さん・保護者の野瀬さん・中澤さん
おかげさまで開店以来、四ヶ月あまりで約20万円の、飲食売り上げがありました。

仲間が入るまでもうしばらく、頑張ってください。よろしくおねがいします。

花ハウスの素敵な看板もでき、少しづつ、はぐるまの喫茶という感じがしてきました。「足がなくて……」という方は、支援

の会のときに、車を出しますので、センターにお問い合わせ下さい。



三脚太郎

お忘れではないですね、特許をいただいた、三脚カバーですが、こちらもボランティアさんに縫製していただき、出来上がりました。（仲間も縫えるように学習をしなければなりませんね。）

後は販売にのせるための、パンフレットが完了するのみとなりました。パンフレットをインターネットにのせ、全国販売を展開していきます。また、地域のカメラ屋さんにも置いてもらいます。反響はいかに！

ちなみに、パンフレットは、プロのカメラマン、新人の中村と、広報担当の中山が、考案者の中倉さんの意見を聞きながら仕上げにかかっています。乞うご期待！



お世話になりました

第2ホーム 責任者

山本 糸子さんより

「こんばんは！」と明るい声で部屋に入り、仲間たちと挨拶や話を交わします。その様子で仲間たちの心身の状態を把握する。そこからホーム職員の私の一日の仕事は始まりました。就寝前には「明日も元気に起きるよ！楽しい一日を過ごすよ」と励まして私のその日の仕事が終わるのです。週ほぼ三日通い、ついに十五年という月日が過ぎました。そして今年四月末日を以って、「第2はぐるま共働学習ホーム」を退職させていただきました。

「はぐるま」に勤務することになり、第2ホームで、岩田洋子さんのご指導を受けました。職員としてまだ頼りなげな頃、よく高木 計先生のご指導を戴きました事も

懐かしい思い出です。岩田さんの熱心さにいつしか引き込まれて、自分もかなり真剣になっていった経緯があります。仲間支援は、はぐるまの方針に沿って行うことは、難しく仲間と衝突、ふがいない自分に涙をこぼした事も・・・そして勤務まもなくして思いました。「いつも心穏やかな自分である、明るく誠実に、温かい心を持って接すること」これが私にできる仲間支援の努力目標なのだ。仲間と会うときは、常に心掛けました。

しかしホームは《波乱万丈》なのです。電気のヒューズが飛んで真っ暗でキヤー・エアコンから水滴がボタリ、畳に大きなシミ・エツ― 仲間同志の大げんか、大岡裁きも難しい、解決！とはいかない個人的な悩みや問題、長期入院、腹痛で聖マリの夜中救急へ、深夜に向けて続く嘔吐や高熱、健康管理と安全の確保は、仲間の加齢と共に近年は気の抜けない事となりました。髪カット・歯磨き支援いろいろと書き切れ

ません。

私にとって「はぐるま」は仲間からエネルギーをもらえる大切なところでした。あの様に一生懸命努力して生きている仲間たちが、他にいるでしょうか。その仲間たちのお手伝いをしてこられた事は、私にとって幸せであると共に誇りでもあります。

仲間の皆様本当にありがとうございました。はぐるまで出会えた、理事長をはじめ、職員、保護者の皆様方、長い間温かくおつきあい下さり、本当にありがとうございました。皆様のご健勝をお祈りします。

こんなにホームの事を熱く語れる人は他にいません。残された職員一同引継ぎ頑張ります。ありがとうございました。



第1ホーム 佐藤伸吾さんより

「はぐるま」で二年間お世話になった佐藤です。長いようで短く感じた世話人の日々・・・いろいろな事を経験させてもらいました。サポートセンターでは味わう事のできない、当事者たちの暮らしの中に入りサポートする。移動介護や身体介護、それ以外のサポートで、最初はとまどいがあり、慣れるのに時間がかかりました。

はぐるまの仲間たちは、私が考えるより何でもできるし、なにより言葉でのコミュニケーションが取れる事にビックリしたのを覚えています。

世話人の仕事をやり終えて学んだ事は、《同じ人として接する事》です。障害者という言葉で「しかたがない」という気持ちがある、180度変った感じがします。できることを探せば、自分よりも優れていると感じることが多かったように思います。私はこのホームに入って良かったと心か

ら感じています。たくさん学んだこともそうですが、なにより色々な人に出会えたことが、一番大きかったかもしれません。

もう一度心からお礼申しあげます。ありがとうございました。

仲間にとってお兄さんイヤ弟かな？そんな身近な存在でした。現在はサポートセンターロンドの、タイムケアのお兄さんとして、活躍中。同業者として職員一同、応援しています。

これからよろしく

第1ホーム 中村 義一さんより

「仲間たちの報道を通して」

はじめまして、四月からはぐるまで生活支援員として、第1ホームとみどりホームでの宿直勤務をおこなっている中村義一です。私は以前、沖縄の石垣島に住んでいた時に、石垣市役所の広報ビデオの制作をして

いました。広報ビデオとは、一週間に一回市内のお知らせや出来事等をテレビで放送し、一般の広報誌とは違い、リアルに状況を伝える事ができる、市民情報番組です。

そこで、ある時、市内の福祉施設を紹介するにあたって、知的障害者施設に取材目的で何度か訪れました。南国特有の陽気さでしようか、利用されている方々は私と初めてあった時に、「一緒に歌を歌おうよ」「こっちで卓球をやらない？」と誘ってくれました。訪れる前まではどのように接して取材を行っていけばいいのか、迷っていたのですが、そんな不安は一気に無くなりました。おかげで利用者さんが楽しく生活している様子を撮影する事ができ、マイナスイメージが、今だに根強く残っている福祉施設を、華やかに紹介することができました。

放送終了後も島内では、利用者さんと何度か出会う機会があります。「大丈夫ですか」「また遊びに来て下さいね」と声をかけてくれます。島で一人生活をしている私を見て、励ましてくれます。また、祭りでは

見て、励ましてくれませう。また、祭りでは彼らから踊りを教えてもらい、その後の酒の飲み方までレクチャーを受けました。

確固たる目的を持たないまま、離島に住んでいた私は、一人になるとよく「自分はいかに生きるべきか」と考えるようになりました。そんな時彼らと出会い、何かによって心と体がふれあえたことを実感し、大切な何かを教えてもらった様な気がします。

私たちは、どちらか一方が優れているなどと評価するのではなく、自分自身のあり方をよく認識し、その上で個々の意識にぶつかってゆくことが必要だと思います。

自分の存在をかけた対決をすることなく、新しい道を見出してゆくことは、不可能ではないでしょうか。

中村さんの人柄がにじみでています。新しいチャレンジができそう！
これからよろしく。

ホーム職員会より

ホームの主たる世話人会が月一回を定例とし、ホーム職員を対象に研修会を充実さ

せる活動が開始されました。

「食」についてをテーマに、昨年職員研修を行っていただきますので、このたび第二段として、「食事支援の実際」として栄養価を考えた得意メニューを持ち寄りしました。油を使わない鳥肉のフライ・野菜と小魚の酢の物・くきわかめを使った炒め物等、すつごくおいしく・ヘルシーな品々が並びました。仲間の健康はこうして保たれているのです。



後援会より

少しづつ存在が浸透しつつありますが、今年度の目標二〇〇口に達するにはまだ努力が必要のようです。

今年度はホームの移転があり、引越しや新設備投資に資金がかかります。後援会の協力が必要になりますので、是非会員として資金協力をお願いします。

物品の協力がありません。

花ハウスにて販売させていただいています。長原様、稲川様ありがとうございます。

会員の更新をして下さった方々へ

ありがとうございます。後ほど後援会だよりにて、紹介させていただきます。



試食会